



のんびりモードで山菜採り+スラブ登り

---

## 前ヶ岳V字第一スラブと霧来沢左俣～右俣

石井

---

【日時】 2007年5月26日～27日

【メンバー】 石井 (L) 、 棚橋、 岩田

一昨年の同時期にも同じような計画を出したものの、スラブの途中で雪が引っ掛かっているとか、予報が怪しいとかで、結局山菜採りで終わってしまった（まあ、決して無駄足ではなかったのだが…）。寡雪と言われた今年、行くしかないと募集したところ、棚橋さん、岩田さんという心強いメンバーが手を上げてくれたので、まずはひと安心。

どこから行ってもこの辺りは遠く感じる。どうせならと、日光宇都宮道路今市ICから会津田島、昭和村を経てひたすら下道、山道。岩田さん曰く「3級」とのこと。ごめんなさい。集落の中の本名駅にて仮眠とする。

翌朝はまずまずの天気。予報からすれば土曜より日曜の方が雨の確率が高い、ということで、当初の予定を入れ替え、初日にスラブを登り、日曜に沢と山菜を楽しむことにする。霧来沢沿いの林道はかつての工事も終わり、登山口まで車で入ることができたが、津川への峰越えの林道は閉鎖されたままのようである。仕度をして出発、かれこれ3度目となる通い慣れた沢沿いの道を小一時間進むと鞍掛沢出合、少し上流に泊まりの荷物をデポして岩装備で上流へと向かう。

多雪だった一昨年は、6月でも二俣下部から雪渓があったが、さすがに今年は少なく、V字スラブを遠望できる辺りに薄めの雪渓が一箇所のみ。右俣本流が左に折れて大きな雪渓となる手前の、右手正面の小沢がV字スラブの入口である。

急なゴーロの沢をつめ、上部が右スラブとなる沢を右に分け、雪渓の残るV字スラブへと入っていく。やや傾斜が出てきた溝状の滝のワンポイントがやや難しく、石井が登ってお助けを出す。やがて一面にスラブが広がり、左から4, 3, 2, 1, の各スラブを望める、やや平坦なところが「V字の広場」で、実に気持ちの良いところだ。青空をバックに突き上げている各スラブはどれもさほどの傾斜はなく、稜線も割と近くに感じられる。

目指す第一スラブは一番右の、一番短そうなルートだ。しかし、近寄ってみるとさすがに傾斜を感じるようになり、僅かな水流の右手を直上する部分が悪く、ここで初めてロープを引く（残置あり）。ランニングとビレイ点は左右の灌木に求め、ハーケンは打たない（というより打つほど困難は感じない）。もう一箇所、滝状を右手から



乗り越すのにもう1ピッチ使用したのみで、あとはスラブ登りも僅かで稜線直下、ひと登りで稜線に達した。実働約2時間、沢登りの範疇といえそうとも言える、快適なクライミングであった。ごくうすい踏跡のある稜線をコシアブラを探しながら小一時間辿り、登山道を少し登って御神楽の肩の小屋でひと休み。下山は登山道を一時間強で鞍掛沢出合だったが、上流へ山菜を探しにちょっと寄り道…。それほどの収穫ではなかったが、三人が楽しめる程度の量は確保できたのでよしとしよう…。焚火を囲み、山菜のテンプラ、おひたしをつまみにビールを飲み、クライミングの余韻に浸ってのんびりする。

翌朝もまずまずの天気で、のんびり朝飯を食って準備していると、上流へ山菜採りに行ってきた地元のおじさん達や、下流からV字第二スラブを登るという福島のパーティーが来たりと、結構人通りが多い…。

こちらは登ろうと思っていたところは登ったので、のんびりと山菜を物色しながら、左俣～右俣の周回に出かけることにする。左俣へ入ってしばらくの堰堤状の滝、そして数字で表現する分にはすごい100m以上の大滝（両側に灌木があるので高度感はあまり感じない）と、相も変わらず楽しむことができた。平坦となった左俣に小滝が出てくる辺りで稜線を乗り越す。対岸には前ヶ岳の各スラブが望まれる、ちょっとした展望台だが、どれがどれだか同定するには下部から登った方が間違いない。灌木と露岩の斜面を下降し、段々スラブの辺りから雪渓に乗る。雪が少ないと言われた割には、左俣も3分の1は雪の下であったし、下降する右俣の大雪渓も、V字スラブ入口までは一面に広がっていた。

雪渓をスタスタと下り、樹林帯に入っただけで二俣、泊地へと帰着し、車へと戻ってもまだ昼過ぎ。かなりのんびりモードの2日間であった。トピックといえば、帰りに寄った湯倉温泉。無人の小さな建物に入り料金箱に100円を入れて、狭い脱衣場を抜けると、小さな浴槽は混浴だ。地元のおばちゃんと談笑しながら只見川の景色と温泉を楽しむ。古き良きというべき、小さなポンプで揚げているだけの、掛け流し、混じりっけなしの天然温泉だ。

そしてまた遠路はるばる、六十里越を越して252号線をひた走り、「じねん」で再び春の味を堪能して、帰りは関越道経由で帰京したのでした。

今回の足回りは、棚橋さんが沢足袋とフラットソール、岩田さん、石井はアクアステルスラバーの沢靴とフラットソールで行ったが、結局フラットソールは使わずじまい。特に乾いたスラブにはアクアステルスが快適。

ルートの的にも困難さは少なく、リーダーがしっかりしていれば岩登りの経験の浅い人でも十分楽しめると思います。この時期、山菜とともに楽しむにはうってつけなので、来年は反対側の湯沢のスラブでも計画しようかと企んでいます。

【コースタイム】

5月26日 御神楽登山口（8:30）－V字スラブ入口（10:35/50）－稜線（13:10）－御神楽休憩舎（13:45/14:10）－鞍掛沢出合上泊場（15:20）

5月27日 泊場（8:30）－稜線（10:45/11:00）－登山口（13:00）

【地形図】 1:25000 御神楽岳、猪ヶ森山



<V字の広場下。第一スラブは右手>



<霧来沢左俣大滝を登る>